

厚生労働科学研究費補助金(長寿科学政策研究事業)  
「要介護高齢者の生活機能向上に資する効果的な生活期リハビリテーション/  
リハビリテーションマネジメントのあり方に関する総合的研究」  
平成 28 年度分担研究報告書

訪問リハビリテーション利用者及び通所リハビリテーション利用者の利用実態

研究分担者 辻 一郎(東北大学大学院医学系研究科 教授)  
研究協力者 曾根 稔雅(東北福祉大学健康科学部 講師)  
研究代表者 川越 雅弘(国立社会保障・人口問題研究所 部長)

【研究要旨】

本研究の目的は、訪問リハビリテーション(訪問リハ)及び通所リハビリテーション(通所リハ)事業所における利用者の実態を、既存調査データをもとに整理した上で比較することである。

訪問リハ利用者に関する調査データは厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業(H27-長寿-一般-001)要介護高齢者の生活機能向上に資する効果的な生活期リハビリテーション/リハビリテーションマネジメントのあり方に関する総合的研究のデータを用いた。また、訪問リハ利用者と通所リハ利用者の利用実態を比較するため、通所リハ利用者の結果は、平成 27 年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査(平成 27 年度調査)(3)リハビリテーションと機能訓練の機能分化とその在り方に関する調査研究事業の記載内容を用いた。

訪問リハ及び通所リハ利用者における特性の差異として、訪問リハ利用者は通所リハ利用者よりも要介護度の重度な者が多く、起居動作、ADL、IADL 全般にわたって自立度の低い者が多いことが示された。リハビリテーションマネジメント上の差異では、通所リハ利用者より、訪問リハ利用者は、ADL、IADL、介護負担に焦点をあて、個人の生活状況に合わせた目標設定や訓練が行われていることが示された。一方、通所リハ利用者は閉じこもり予防や社会参加支援を目的とした訓練が多く行われており、通所という環境特性を踏まえた支援が行われていることが示された。医師との連携状況の差異では、訪問リハ及び通所リハ利用者共に、指示医との連携は計画策定時と見直し時に多く行われており、訓練中の留意事項が指示事項として最も多いことが示された。また、指示医から指示されたりハ内容は理学療法が7割以上と最も多く、症状と訓練内容は半数以上の対象者で随時指示医へ報告されていた。一方、通所リハ利用者に比べ、訪問リハ利用者は、指示されたりハ内容では作業療法との回答が少なく、随時報告している内容では症状及び訓練実施後の効果と副作用が多いことが示された。

## A. 研究目的

本研究の目的は、訪問リハビリテーション(訪問リハ)及び通所リハビリテーション(通所リハ)事業所における利用者の実態を、既存調査データをもとに整理した上で比較することである。

## B. 方法

訪問リハ利用者に関する調査データは厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業(H27-長寿-一般-001)要介護高齢者の生活機能向上に資する効果的な生活期リハビリテーション/リハビリテーションマネジメントのあり方に関する総合的研究のデータを用いた。また、訪問リハ利用者と通所リハ利用者の利用実態を比較するため、通所リハ利用者の結果は、平成27年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査(平成27年度調査)(3)リハビリテーションと機能訓練の機能分化とその在り方に関する調査研究事業の記載内容を用いた。

なお、本研究課題は国立社会保障・人口問題研究所倫理審査委員会で承認されている(IPSS-TRN#15001-1)。

## C. 結果

### 1. 訪問リハ及び通所リハ利用者における特性の差異(表1)

#### 1) 年齢、性別

対象者数は訪問リハ利用者3,989名、通所リハ利用者1,983名であった。平均年齢は訪問リハ利用者で78.1歳、通所リハ利用者で80.1歳、男性の割合は訪問リハ利用者で42.1%、通所リハ利用者で38.7%であった。

#### 2) 傷病名

傷病名において、訪問リハ利用者で最も多かったのは脳卒中(40.8%)であり、高血圧(30.2%)、骨折(26.6%)の順に続いた。訪問リハ利用者は、通所リハ利用者に比べ、高血圧の者(30.2%、42.7%)、関節症・骨粗鬆症の者が少なく(21.0%、30.0%)、廃用症候群の者が多かった(13.5%、4.9%)。

#### 3) 要介護度、障害高齢者の日常生活自立度

要介護度は、通所リハ利用者に比べ、訪問リハ利用者は、要介護1の者が少なく(1:17.1%、28.1%)、要介護3・4・5の者が多かった(3:17.6%、11.3%、4:14.0%、7.2%、5:12.2%、2.4%)。障害高齢者の日常生活自立度は、自立・J1・J2・A1の者が通所リハ利用者で多く(自立:2.7%、5.1%、J1:5.9%、10.3%、J2:11.7%、21.3%、A1:28.6%、29.4%)、A2・B1・B2・C1・C2の者が訪問リハ利用者で多かった(A2:18.1%、15.6%、B1:11.5%、8.1%、B2:8.8%、4.5%、C1:2.8%、0.5%、C2:6.1%、0.9%)。

#### 4) ADL、IADL、起居動作

訪問リハ利用者の現在の状況において、ADL の各項目のうち、自立している割合が最も高いのは食事(72.7%)であり、移乗(61.4%)、排泄(60.1%)の順に続いた。IADL は項目全般で自立している者が少なく、屋外移動が自立している者は13.7%、洗濯では12.9%、調理では12.5%が自立していた。起居動作が自立している者の割合は、座位保持80.2%、起き上がり74.3%、立ち上がり64.4%、立位保持61.1%の順であった。訪問リハ利用者と通所リハ利用者との比較では、訪問リハ利用者はADL、IADL、起居動作全ての項目で自立している者が少なかった。ADL で介助を要していた動作は、訪問リハと通所リハ利用者で共通して入浴が最も多く(69.3%、56.1%)、階段昇降(44.0%、32.9%)、更衣(45.6%、29.9%)の順であった。IADL は全ての項目で、訪問リハ利用者と通所リハ利用者共に6割前後の対象者が介助を必要としていた。起居動作における立ち上がり、立位保持では、訪問リハ利用者の約2割が介助を必要としていたのに対し、通所リハ利用者で介助が必要な者は1割以下であった。

将来の見通しにおいて、通所リハ利用者に比べ、訪問リハ利用者はADL、IADL、起居動作全ての項目で改善の見通しを設定している者が多かった。改善の見通しの割合が最も高かった項目は屋外移動であり、訪問リハ利用者では26.8%、通所リハでは15.9%であった。

#### 5) 認知機能、認知症高齢者の日常生活自立度

HDS-R の平均値は訪問リハ利用者で21.3点、通所リハ利用者で21.5点であり、ほぼ同様の点数であった。MMSE の平均値も同様に、訪問リハ利用者で23.3点、通所リハ利用者で22.9点であった。認知症高齢者の日常生活自立度は、訪問リハ利用者と通所リハ利用者との間で、大きな差は認められなかった(自立:43.9%、43.4%)。

## 2. 訪問リハ及び通所リハ利用者におけるリハマネジメント上の差異(表2)

### 1) リハビリテーション計画書の主たる作成者

訪問リハ利用者と通所リハ利用者共に最も多い主たる作成者は、理学療法士だった(69.3%、61.8%)。

### 2) リハビリテーション計画書の目標

訪問リハ利用者において、最も多かつたリハビリテーション計画書の目標は心身機能の向上(58.9%)であり、続いて心身機能の維持(56.4%)、ADL向上(52.5%)、ADL維持(44.6%)の順であった。訪問リハ利用者は、通所リハ利用者より心身機能の向上(58.9%、51.6%)、ADL向上(52.5%、36.3%)、介護負担軽減(27.7%、22.1%)をリハビリテーション計画書の目標としている者が多かった。一方、健康管理(33.1%、51.2%)、心身機能の維持(56.4%、62.4%)、閉じこもり予防(15.4%、34.2%)、社会的参加支援(11.2%、18.7%)は通所リハ利用者で多かった。

### 3) 日常生活上の課題

訪問リハ利用者において、最も多かった日常生活上の課題は歩行・移動(77.6%)であり、続いて筋力向上(73.9%)、関節可動域(61.3%)の順であった。通所リハ利用者でも同様に、歩行・移動(84.2%)、筋力向上(74.2%)、関節可動域(51.2%)が日常生活上の課題として多く挙げられていた。訪問リハ利用者と通所リハ利用者との比較では、訪問リハ利用者は心肺の運動耐用能機能(35.6%、30.4%)、関節可動域(61.3%、51.2%)、筋緊張緩和(36.2%、28.1%)、姿勢の維持(37.8%、25.5%)、起居・移乗動作(40.9%、25.7%)、意欲の向上(30.8%、18.8%)、排泄(17.6%、9.5%)、買い物(10.3%、5.2%)、余暇活動(22.9%、17.4%)の課題を抱えている者が多かった。一方、歩行・移動において訪問リハ利用者は、通所リハ利用者より課題を抱えている者が少なかった(77.6%、84.2%)。

### 4) 最も優先順位が高い日常生活上の課題

優先順位が高い日常生活上の課題は、訪問リハ及び通所リハ利用者で共に歩行・移動が最も多く、訪問リハ利用者では41.3%、通所リハ利用者では49.5%であった。

### 5) 最も優先順位が高い課題に対する目的

訪問リハ利用者で改善と回答した者は62.6%であり、通所リハ利用者の47.0%より多かった。

### 6) 訓練の実施状況

訓練の実施状況で実施されている頻度の多い訓練は、訪問リハ及び通所リハ利用者それぞれで、関節可動域訓練(58.9%、50.9%)、筋力向上訓練(67.2%、71.9%)、歩行・移動訓練(68.2%、71.3%)であり、半数以上の対象者が実施していた。また、通所リハ利用者に比べ、訪問リハ利用者は体力向上訓練(23.7%、33.1%)、筋持久力向上訓練(28.9%、36.9%)、階段昇降訓練(14.7%、20.4%)の実施が少なく、関節可動域訓練(58.9%、50.9%)、筋緊張緩和訓練(30.1%、24.4%)、姿勢の保持訓練(29.3%、17.9%)、起居・移乗動作訓練(28.5%、15.8%)の実施が多かった。加えて、ADLに関する練習は、通所リハ利用者より、訪問リハ利用者で多く実施されていた(入浴:3.4%、2.7%、整容:1.0%、0.7%、排泄:5.1%、2.5%、更衣:2.7%、2.0%、食事:0.9%、0.9%)。

1週間あたりの訓練時間は、訪問リハ利用者では食事行為練習29.8分、言語機能訓練25.2分、買い物練習23.4分の順に長かったのに対し、通所リハ利用者では自己訓練練習49.5分、余暇活動練習44.1分、対人関係練習36.0分の順に長かった。

### 3 . 訪問リハ及び通所リハ利用者における医師との連携状況の差異

#### 1 ) 指示医との連携の有無・時期

指示医との連携の有無・時期は、訪問リハ及び通所リハ利用者共に計画策定時が最も多く(74.1%、76.0%)、次いで見直し時が多かった(46.1%、43.3%)。訪問リハ利用者は通所リハ利用者に比べ、その他(18.6%、7.9%)の回答が多く、なし(1.9%、8.4%)の回答が少なかった。

#### 2 ) 指示医から受けた指示や指摘事項

指示医から受けた指示や指摘事項は、訪問リハ及び通所リハ利用者共に訓練中の留意事項が最も多かった(71.4%、74.8%)。通所リハ利用者に比べ、訪問リハ利用者は開始前にチェックすべきことの指示が少なかった(24.7%、39.3%)。

#### 3 ) リハの目標について指示医から指示を受けたか

リハの目標について指示医から指示を受けたかにおいて、はいと回答した者は訪問リハ利用者では55.7%、通所リハ利用者では56.1%で、ほぼ同様の割合であった。

#### 4 ) 指示医から指示されたりハ内容

指示医から指示されたりハ内容は、理学療法との回答が訪問リハ及び通所リハ利用者共に最も多く73.8%、75.4%であった。作業療法のリハ内容は、通所リハ利用者より、訪問リハ利用者で少なかった(25.4%、37.6%)。

#### 5 ) 指示医へのリハビリテーション計画の報告以外に随時報告している内容

指示医へのリハビリテーション計画の報告以外に随時報告している内容は、訪問リハ及び通所リハ利用者それぞれで、症状の報告(67.8%、57.0%)、訓練内容の報告(62.5%、63.2%)が半数以上の対象者で報告されていた。訪問リハ利用者と通所リハ利用者との比較では、症状の報告(67.8%、57.0%)及び訓練実施後の効果と副作用に対する報告(23.8%、17.0%)が、通所リハ利用者より訪問リハ利用者で多かった。

## D. 考察

訪問リハ及び通所リハ利用者における特性の差異では、通所リハ利用者に比べ、訪問リハ利用者で廃用症候群の者、要介護度が重度の者、障害高齢者の日常生活自立度で自立度の低い者が多かった。現在の居宅での状況は、通所リハ利用者に比べ、訪問リハ利用者は一貫して ADL、IADL、起居動作全ての項目で自立している者が少なかった。将来の見通しでは、通所リハ利用者に比べ、訪問リハ利用者は全ての項目で見通しを改善と設定している者が多かった。

訪問リハ及び通所リハ利用者におけるリハビリテーションマネジメント上の差異では、リハビリテーション計画書の主たる作成者は、訪問リハ利用者と通所リハ利用者共に 6 割以上が理学療法士だった。リハビリテーション計画書の目標は、通所リハ利用者より、訪問リハ利用者で心身機能の向上、ADL 向上、介護負担軽減としている者が多く、実際の生活場面での ADL や介護負担に焦点をあてた支援が多く行われていることが示された。一方、訪問リハ利用者より、通所リハ利用者で健康管理、心身機能の維持、閉じこもり予防、社会参加支援を目標としている者が多く、通所での環境を利用し、他者との交流や社会参加を促す取り組みに加え、閉じこもりを予防する取り組みが行われていることが示された。日常生活上の課題では、通所リハ利用者に比べ、訪問リハ利用者は多くの項目で課題を抱えている者が多かった。また、優先順位が高い日常生活上の課題は、訪問リハ及び通所リハ利用者で共に歩行・移動が最も多かった。最も優先順位が高い課題に対する目的では、訪問リハ利用者で改善と回答した者は 6 割以上であったのに対し、通所リハ利用者では 5 割以下であり、より訪問リハで改善を目的としていることが示された。実施されている頻度の多い訓練は、訪問リハ及び通所リハ利用者共に関節可動域訓練、筋力向上訓練、歩行・移動訓練であり、半数以上の対象者が実施しており、身体機能や移動に焦点をあてた訓練が多く行われていることが示された。また、通所リハ利用者に比べ、訪問リハ利用者は起居・移乗動作や ADL 全般の訓練を行っている者が多く、生活場面に合わせた支援がより多く行われていることが示された。1 週間あたりの訓練時間は、通所リハ利用者では自己訓練練習、余暇活動練習、対人交流練習のように通所での環境を利用した訓練の時間が長いことが示された。一方、訪問リハ利用者では食事行為練習、買い物練習、公共交通機関利用練習など、対象者個人の生活に合わせた支援が長い時間行われていることが示された。

医師との連携状況の差異では、指示医との連携の有無・時期は、訪問リハ及び通所リハ利用者共に計画策定時、見直し時の順に多かった。指示や指摘事項は、訪問リハ及び通所リハ利用者共に訓練中の留意事項が最も多く 7 割以上の対象者が指示を受けていた。また、通所リハ利用者に比べ、訪問リハ利用者は開始前にチェックすべきことの指示が少なかった。リハの目標について指示医から指示を受けたかにおいて、はいと回答した者は訪問リハ利用者と通所リハ利用者共に 56% 程度でほぼ同様の割合であった。指示医から指示されたりハ内容は、理学療法との回答が訪問リハ及び通所リハ利用者共に 7 割以上と最も多く、作業療法との回答は、通所リハ利用者より、訪問リハ利用者で少なかった。訪問リハの目標設定や訓練が個人の生活状況に合わせて行われていることを考えると作業療法の一層の活用が望まれる。

指示医へのリハビリテーション計画の報告以外に随時報告している内容として、訪問リハ及び通所リハ利用者共に症状の報告、訓練内容の報告が半数以上の対象者で挙げられた。また、症状の報告及び訓練実施後の効果と副作用に対する報告は、通所リハ利用者より、訪問リハ利用者で多かった。

## **E．結論**

訪問リハ及び通所リハ利用者における特性の差異として、訪問リハ利用者は、通所リハ利用者よりも要介護度の重度な者が多く、起居動作、ADL、IADL 全般にわたって自立度の低い者が多いことが示された。リハビリテーションマネジメント上の差異では、通所リハ利用者より、訪問リハ利用者は、ADL、IADL、介護負担に焦点をあて、個人の生活状況に合わせた目標設定や訓練が行われていることが示された。一方、通所リハ利用者は閉じこもり予防や社会参加支援を目的とした訓練が多く行われており、通所という環境特性を踏まえた支援が行われていることが示された。医師との連携状況の差異では、訪問リハ及び通所リハ利用者共に、指示医との連携は計画策定時と見直し時に多く行われており、訓練中の留意事項が指示事項として最も多いことが示された。また、指示医から指示されたりハ内容は理学療法が7割以上と最も多く、症状と訓練内容は半数以上の対象者で随時指示医へ報告されていた。一方、通所リハ利用者に比べ、訪問リハ利用者は、指示されたりハ内容では作業療法との回答が少なく、目標に応じて理学療法・作業療法などの指示がバランスよくなされる必要があると思われた。随時報告している内容では症状及び訓練実施後の効果と副作用が多いことが示された。

## **F．健康危険情報**

なし

## **G．研究発表**

なし

## **H．知的所有権の出願・登録状況**

なし

表 1. 訪問リハ及び通所リハ利用者における特性の差異

	訪問リハ利用者 (n=3,989)	通所リハ利用者 (n=1,983)
	Mean ± SD or %	Mean ± SD or %
1) 年齢、性別		
年齢	78.1 ± 10.7	80.1 ± 9.1
性別		
男性	42.1	38.7
女性	57.6	61.1
無回答	0.2	0.2
2) 傷病名 (複数回答)		
高血圧	30.2	42.7
脳卒中	40.8	43.4
心不全	11.1	12.4
糖尿病	14.1	17.0
呼吸不全	2.8	3.1
脊椎・脊髄障害	16.5	16.7
腎不全	4.7	3.4
関節リウマチ	3.3	2.7
関節症・骨粗鬆症	21.0	30.0
進行性の神経筋疾患	3.8	1.5
悪性新生物	4.3	6.5
うつ病	3.1	3.8
認知症	10.1	13.2
パーキンソン病	7.5	4.6
廃用症候群	13.5	4.9
肺炎	3.0	2.4
骨折 (圧迫骨折を含む)	26.6	26.3
その他	17.4	18.2
3) 要介護度、障害高齢者の日常生活自立度		
要介護度		
要支援 1	3.9	8.9
要支援 2	11.0	15.4
要介護 1	17.1	28.1
要介護 2	22.7	26.1
要介護 3	17.6	11.3
要介護 4	14.0	7.2
要介護 5	12.2	2.4
申請中	0.2	0.1
無回答	1.3	0.7
障害高齢者の日常生活自立度		
自立	2.7	5.1
J1	5.9	10.3
J2	11.7	21.3
A1	28.6	29.4
A2	18.1	15.6
B1	11.5	8.1
B2	8.8	4.5
C1	2.8	0.5
C2	6.1	0.9
不明	1.2	1.9
無回答	2.6	2.4
4) ADL、IADL、起居動作		
現在の状況	(自立/見守り/一部介助/全介助/把握せず/無回答)	(自立/見守り/一部介助/全介助/把握せず/無回答)
ADL		
食事	72.7/9.4/9.9/6.4/0.1/1.5	88.1/6.7/3.7/0.0/1.1/0.5
排泄	60.1/6.0/19.3/13.0/0.1/1.5	77.6/6.9/12.2/2.8/0.0/0.6



入浴	20.2/8.1/43.8/25.5/0.7/1.7	28.9/11.7/48.0/8.1/1.1/2.2
更衣	47.2/5.8/32.7/12.9/0.1/1.4	59.1/10.4/26.8/3.1/0.1/0.5
整容	56.4/7.8/23.1/11.2/0.2/1.4	69.7/9.0/17.8/2.7/0.1/0.7
移乗	61.4/13.3/13.9/9.3/0.5/1.6	72.0/14.3/11.1/1.8/0.2/0.7
屋内移動	56.6/14.7/12.4/14.2/0.5/1.7	67.4/17.3/10.2/4.5/0.0/0.5
階段昇降	17.5/18.1/23.2/20.8/17.2/3.2	28.2/27.6/23.9/9.0/9.1/2.2
IADL		
屋外移動	13.7/20.8/25.9/33.8/3.2/2.5	29.3/27.9/24.1/16.2/1.4/1.1
買い物	6.4/9.0/19.2/46.6/14.8/4.0	14.9/12.9/22.8/35.1/11.1/3.1
調理	12.5/2.5/12.2/48.2/20.2/4.4	17.9/4.1/14.7/42.9/16.1/4.2
洗濯	12.9/2.0/12.5/49.1/19.1/4.4	20.8/4.1/14.5/41.0/14.9/4.4
掃除	9.3/2.4/16.0/49.4/18.6/4.4	16.9/4.5/18.9/40.3/15.1/4.2
起居動作		
起き上がり	74.3/6.4/9.6/7.9/0.2/1.6	85.6/6.5/5.3/1.8/0.0/0.7
座位保持	80.2/7.9/5.7/4.5/0.1/1.5	91.6/4.8/2.3/0.7/0.0/0.7
立ち上がり	64.4/12.1/13.2/7.8/0.8/1.8	75.1/14.2/8.2/1.7/0.0/0.8
立位保持	61.1/15.3/12.8/8.0/1.0/1.8	75.3/14.8/7.3/1.6/0.1/0.9
将来の見通し	(改善/維持/減退・低下/無回答)	(改善/維持/減退・低下/無回答)
ADL		
食事	7.1/80.4/5.2/7.3	3.6/88.5/2.3/5.6
排泄	11.3/74.4/7.0/7.3	5.1/85.2/3.8/5.9
入浴	15.3/68.7/8.4/7.5	8.7/78.6/5.8/6.9
更衣	14.7/72.0/6.3/6.9	7.8/82.7/3.9/5.6
整容	10.5/76.8/5.4/7.2	5.9/85.2/3.2/5.7
移乗	14.3/70.3/7.6/7.8	8.5/80.3/5.5/5.7
屋内移動	21.0/62.4/9.2/7.3	14.0/73.2/6.9/5.8
階段昇降	18.1/56.6/13.1/12.2	13.5/67.0/10.6/8.9
IADL		
屋外移動	26.8/53.5/10.7/9.0	15.9/67.0/8.8/8.3
買い物	14.8/62.3/9.5/13.4	9.2/70.8/8.3/11.7
調理	8.7/66.2/9.9/15.3	7.2/71.7/7.5/13.7
洗濯	7.6/67.5/9.7/15.3	7.0/72.1/7.3/13.6
掃除	9.2/65.6/10.2/15.1	7.9/71.0/7.9/13.2
起居動作		
起き上がり	12.1/73.1/6.2/8.6	6.5/83.0/3.7/6.9
座位保持	9.7/75.7/5.8/8.7	5.2/85.4/2.5/6.9
立ち上がり	17.8/64.8/8.5/8.9	10.8/77.0/5.2/7.0
立位保持	18.6/63.7/8.8/8.9	10.1/77.6/5.2/7.1

#### 5) 認知機能、認知症高齢者の日常生活自立度

認知機能		
HDS-R	21.3 ± 7.1 (n=1,004)	21.5 ± 6.6 (n=706)
MMSE	23.3 ± 6.0 (n=191)	22.9 ± 5.6 (n=143)
日常生活自立度		
自立	43.9	43.4
	20.2	24.3
a	8.9	11.5
b	10.0	10.5
a	4.5	3.9
b	1.6	0.8
	2.7	0.6
M	0.6	0.1
不明	3.0	1.2
無回答	4.6	3.8

表 2. 訪問リハ及び通所リハ利用者におけるリハビリテーションマネジメント上の差異

	訪問リハ利用者 (n=3,989)	通所リハ利用者 (n=1,983)
	Mean ± SD or %	Mean ± SD or %
1) リハビリテーション計画書の主たる作成者		
医師	0.9	1.0
理学療法士	69.3	61.8
作業療法士	22.2	24.8
言語聴覚士	4.0	1.3
その他	0.1	2.9
無回答	3.6	0.0
2) リハビリテーション計画書の目標		
健康管理	33.1	51.2
心身機能の維持	56.4	62.4
心身機能の向上	58.9	51.6
意欲の向上	16.4	15.4
療養上のケアの提供	3.6	8.2
ADL 維持	44.6	45.2
ADL 向上	52.5	36.3
IADL 維持	11.7	15.3
IADL 向上	19.2	13.9
閉じこもり予防	15.4	34.2
社会的参加支援	11.2	18.7
介護負担軽減	27.7	22.1
3) 日常生活上の課題 (複数回答)		
呼吸機能	9.0	3.2
心肺の運動耐用能機能	35.6	30.4
循環機能	7.2	4.0
関節可動域	61.3	51.2
筋力向上	73.9	74.2
筋緊張緩和	36.2	28.1
筋持久力向上	53.2	50.9
運動機能	52.3	49.6
痛みの緩和	50.6	50.7
姿勢の維持	37.8	25.5
起居・移乗動作	40.9	25.7
歩行・移動	77.6	84.2
階段昇降	25.2	26.0
公共交通機関利用	4.6	2.9
認知機能	13.7	14.5
意欲の向上	30.8	18.8
入浴	17.2	14.2
整容	5.1	4.3
排泄	17.6	9.5
更衣	12.7	9.2
食事	6.5	4.0
調理	8.1	6.0
洗濯	5.2	4.6
掃除・整理整頓	7.2	6.6
家の手入れ	6.5	5.3
買い物	10.3	5.2
対人関係	7.8	9.4
余暇活動	22.9	17.4
仕事	2.5	1.4
音声と発話の機能	5.8	3.1
聴覚機能	0.5	0.5

摂食嚥下機能	6.5	3.0
言語機能	5.2	3.7
コミュニケーション	15.9	12.2
その他	5.1	2.3
<hr/>		
4) 最も優先順位が高い日常生活上の課題		
呼吸機能	1.0	0.4
心肺の運動耐用能機能	3.0	3.4
循環機能	0.2	0.2
関節可動域	3.4	2.3
筋力向上	3.0	4.9
筋緊張緩和	1.9	1.8
筋持久力向上	1.4	2.6
運動機能	3.5	4.1
痛みの緩和	6.4	8.7
姿勢の維持	1.9	1.2
起居・移乗動作	9.9	5.8
歩行・移動	41.3	49.5
階段昇降	1.3	1.6
公共交通機関利用	0.4	0.5
認知機能	0.4	1.8
意欲の向上	2.2	0.8
入浴	1.3	0.8
整容	0.1	0.0
排泄	2.8	1.2
更衣	0.4	0.3
食事	0.5	0.1
調理	1.0	0.8
洗濯	0.2	0.2
掃除・整理整頓	0.3	0.2
家の手入れ	0.7	0.9
買い物	1.2	0.5
対人関係	0.2	0.3
余暇活動	2.2	1.7
仕事	0.5	0.2
音声と発話の機能	0.5	0.2
聴覚機能	0.0	0.0
摂食嚥下機能	1.8	0.4
言語機能	0.7	0.3
コミュニケーション	1.6	0.7
その他	1.5	0.9
無回答	1.2	1.1
<hr/>		
5) 最も優先順位が高い課題に対する目的		
改善	62.6	47.0
維持	29.1	45.4
低下防止	6.7	7.0
不明	1.7	0.6
<hr/>		
6) 訓練の実施状況		
訓練内容		
呼吸機能訓練	6.7	2.1
体力向上訓練	23.7	33.1
循環機能の改善訓練	3.1	2.3
関節可動域訓練	58.9	50.9
筋力向上訓練	67.2	71.9
筋緊張緩和訓練	30.1	24.4
筋持久力向上訓練	28.9	36.9
運動機能改善訓練	25.6	26.6
痛みの緩和訓練	34.0	37.8
姿勢の保持訓練	29.3	17.9

起居・移乗動作訓練	28.5	15.8
歩行・移動訓練	68.2	71.3
階段昇降訓練	14.7	20.4
公共交通機関利用訓練	0.7	0.4
認知機能訓練	4.7	6.5
意欲の向上訓練	6.0	3.6
一連の入浴行為練習	3.4	2.7
一連の整容行為練習	1.0	0.7
一連の排泄行為練習	5.1	2.5
一連の更衣行為練習	2.7	2.0
一連の食事行為練習	0.9	0.9
一連の調理行為練習	2.0	1.0
一連の洗濯行為練習	1.0	0.7
一連の掃除・整理整頓行為練習	1.4	0.9
家の手入れ	1.6	1.2
買い物練習	2.4	0.6
対人関係練習	1.0	1.5
余暇活動練習	4.7	5.1
仕事練習	0.7	0.4
構音機能訓練	2.5	1.4
聴覚機能訓練	0.1	0.0
摂食嚥下機能訓練	3.8	1.7
言語機能訓練	3.2	2.3
コミュニケーション練習	6.3	3.9
自己訓練練習	8.7	9.6
その他	4.5	2.2
1週間あたりの訓練時間		
呼吸機能訓練	12.5 ± 13.3 (n=255)	12.3 ± 9.0 (n=39)
体力向上訓練	15.4 ± 14.0 (n=907)	25.5 ± 34.0 (n=649)
循環機能の改善訓練	14.2 ± 19.0 (n=115)	19.3 ± 13.0 (n=45)
関節可動域訓練	13.8 ± 15.5 (n=2,314)	14.6 ± 13.1 (n=1,003)
筋力向上訓練	13.7 ± 11.1 (n=2,623)	20.2 ± 21.0 (n=1,412)
筋緊張緩和訓練	13.1 ± 10.3 (n=1,164)	15.2 ± 13.0 (n=481)
筋持久力向上訓練	13.1 ± 11.8 (n=1,095)	20.6 ± 20.5 (n=721)
運動機能改善訓練	13.8 ± 12.4 (n=994)	21.1 ± 26.8 (n=520)
痛みの緩和訓練	13.2 ± 11.8 (n=1,327)	19.9 ± 17.0 (n=739)
姿勢の保持訓練	11.9 ± 11.5 (n=1,141)	14.6 ± 25.3 (n=351)
起居・移乗動作訓練	12.6 ± 10.9 (n=1,121)	15.7 ± 21.7 (n=307)
歩行・移動訓練	18.7 ± 15.3 (n=2,654)	19.5 ± 17.8 (n=1,399)
階段昇降訓練	10.5 ± 9.2 (n=562)	11.3 ± 9.5 (n=400)
公共交通機関利用訓練	23.1 ± 19.3 (n=24)	21.6 ± 26.6 (n=8)
認知機能訓練	13.2 ± 16.7 (n=179)	28.5 ± 24.8 (n=126)
意欲の向上訓練	16.5 ± 18.0 (n=223)	26.2 ± 21.3 (n=70)
一連の入浴行為練習	14.8 ± 15.4 (n=126)	20.5 ± 20.5 (n=50)
一連の整容行為練習	15.4 ± 22.8 (n=36)	8.2 ± 5.4 (n=12)
一連の排泄行為練習	13.6 ± 15.3 (n=196)	13.4 ± 9.1 (n=48)
一連の更衣行為練習	14.5 ± 19.0 (n=103)	11.5 ± 11.3 (n=37)
一連の食事行為練習	29.8 ± 55.7 (n=32)	17.9 ± 11.1 (n=18)
一連の調理行為練習	19.1 ± 20.7 (n=72)	26.4 ± 25.3 (n=17)
一連の洗濯行為練習	9.6 ± 5.4 (n=33)	14.2 ± 8.9 (n=13)
一連の掃除・整理整頓行為練習	13.0 ± 9.1 (n=53)	12.1 ± 6.7 (n=16)
家の手入れ	16.6 ± 12.3 (n=58)	13.2 ± 8.5 (n=21)
買い物練習	23.4 ± 17.5 (n=83)	13.3 ± 8.1 (n=10)
対人関係練習	17.4 ± 20.0 (n=33)	36.0 ± 42.8 (n=29)
余暇活動練習	17.0 ± 20.7 (n=173)	44.1 ± 43.6 (n=99)
仕事練習	17.1 ± 11.6 (n=21)	12.5 ± 12.0 (n=8)
構音機能訓練	16.8 ± 14.0 (n=96)	13.3 ± 8.4 (n=26)
聴覚機能訓練	18.8 ± 8.5 (n=4)	- (n=0)
摂食嚥下機能訓練	20.3 ± 17.4 (n=144)	14.4 ± 10.4 (n=33)

言語機能訓練	25.2 ± 19.7 ( n=125 )	21.1 ± 18.2 ( n=44 )
コミュニケーション練習	19.1 ± 18.5 ( n=235 )	20.4 ± 18.7 ( n=74 )
自己訓練練習	17.4 ± 36.7 ( n=319 )	49.5 ± 101.7 ( n=185 )
その他	16.2 ± 25.3 ( n=160 )	29.1 ± 30.4 ( n=42 )

---

